

令和5年度 千歳市立勇舞中学校 自己評価・学校関係者評価評価書及び報告書

校長名	上田 充士
作成日	令和6年2月1日

1 学校の教育目標

開校の理念(校訓)	きらやかに しなやかに
学校教育目標	瞳をきらめかせ 希望に満ちた未来を拓く ・思いやりの心と豊かな人間性をはぐくむ (人間力) ・高い志と確かな学力をはぐくむ (知力) ・たくましい身体と実現する能力をはぐくむ (実践力)

2 学校の経営方針

生きる力をはぐくみ、潤いと活力に満ちた学校の創造 ・信頼と調和のある学校づくりの推進 ・生徒の自己実現を図る教育の推進 ・新しい時代に必要となる資質・能力の育成 ・豊かな心と健やかな体を培い、社会性を育む教育の推進 ・共生を基盤とした豊かな人間性を育む教育の推進	・時代を見通し、新たな可能性を育む教育の推進 ・家庭・地域と連携し、共に生徒を育む教育の推進
--	---

3 重点目標

重点目標『未来社会を創造する生徒の育成』 ～自ら考え・判断し、表現・行動する生徒の育成～	学校関係者評価の結果	
	目標設定の適切さ	本年度の重点目標についての意見等 ・適切です。 ・これからの社会では自分自身で考えて判断し行動していくことが重要である。

4 学校評価の方法

1 自己評価の実施 ・学校評価特別委員会の設置 ・教職員による自己評価(7月・12月) ・生徒による評価、アンケート実施(7月12月、毎月) ・保護者アンケート実施(12月) ・学校評価会議(12月) ・学校だよりによる保護者アンケートの集約結果公表(2月学校だより・HPに掲載) 2 学校関係者評価の実施 ・学校関係者評価委員会の設置・評価の実施(2月) ・評価結果公表(3月学校だより、PTA総会等を活用) 3 新年度会議(2・3月)	学校関係者評価の結果	
	評価方法の適切さ	学校評価の方法についての意見等 ・適切です。 ・特に「生徒アンケート」を毎月とり、生徒の様子を把握しながら寄り添う姿勢は素晴らしい。

5 自己評価・学校関係者評価の結果と改善の方策

- ・評価基準(自己評価) A:十分に達成された(4.0～3.3) B:概ね達成された(3.2～2.8) C:やや不十分である(2.7～2.0) D:不十分である(2.0以下)  
 ・評価基準(関係者評価) A:十分に達成された B:概ね達成された C:やや不十分である D:不十分である

NO	自己評価の結果				学校関係者評価の結果	
	評価項目		達成 状況	取組の 適切さ	自己評価結果 の適切さ	自己評価項目、取組の適切さ、自己評価の結果に基づく改善の方策等についての意見 等
	大項目	小項目				
1	学校経営	(1)全教職員の主体的な参画による機能的な学校運営の充実 (16)目指す子ども像の共有と信頼される学校づくり	A 3.3 (3.5)	A	A	・適切です。 ・授業だけでも大変なのに、不登校生徒、日本語指導が必要な生徒等への支援のことも考えていただき、ありがたい。 ・次年度に向けた準備も進められていることが説明からよく分かった。
		自己評価に基づく改善の方策 ・教職員のお互いの良さを生かし、補い合える協働体制の充実と発展 ・学校からの情報発信の充実～学校・学級だよりの発行・HPの充実とメールの効果的な活用 ・PTA活動等を通じて保護者との連携・充実 ・生徒アンケートの毎月実施による生徒の実態把握 ・不登校生徒、日本語指導が必要な生徒への支援体制構築	改善の方策を進める上での工夫 ・「働き方改革」の一層の推進と教職員の主体性を考慮した人材配置 ・親和的な雰囲気職員室経営、初任者層の教職員が育つ環境 ・PTA活動や情報発信(HPやメール)等による保護者との連携充実 ・学校運営協議会委員、民生委員、町内会役員等との連携 ・ゆうまいルーム(校内教育支援センター)の常設に向けた組織体制の構築			
2	研修活動	(2)実践的指導力の向上を図り、授業改善に結びつく研修の充実	A 3.3 (3.4)	A	A	・適切です。 ・授業だけでも大変なのに、不登校生徒、日本語指導が必要な生徒等への支援のことも考えていただき、ありがたい。
		自己評価に基づく改善の方策 ・身に付けさせたい資質能力の獲得を目指す指導方法の研修と授業研究の充実 ～全体研修、教科部会等、組織的研修と教員個々の研修と授業改善 ・指導者及び学習者用端末を利活用したICTの積極的な利用 ～対話を重視した授業の充実～	改善の方策を進める上での工夫 ・身に付けさせたい資質能力の獲得を意識した研究結果の活用と発展・充実 ・単元を見通した授業計画と単位時間における課題設定、振り返りを全教科でより意識化 ・ICTを有効活用し「対話」の質を高める研修			
3	教育課程	(4)生きる力を育む教育課程の編成・実施と評価・改善	A 3.4 (3.5)	A	A	・適切です。 ・年々有意義な活動になっていることが伺える。
		自己評価に基づく改善の方策 ・生徒の健やかな成長をめざした学びを保障する教育課程の編成・実施 ・本校の地域性を生かした特色ある教育活動(「総合的な学習の時間」の見直し、「働き方改革」) ・各種行事や各教科の指導内容、指導方法をはじめ総合的な学習の時間の改善・充実	改善の方策を進める上での工夫 ・生徒の「学び」を保障する教育計画の充実・改善 ・外部機関と連携した「総合的な学習の時間(職業体験)」の実施 ・「総合的な学習の時間」での学びと各教科での学びを往還した教育活動の改善			
4	学習指導	(7)新しい時代に必要な学力の定着をめざし、内発的動機付けを高める授業改革【重点】 (8)主体的・対話的で深い学び＝主体的に学ぶ態度を育む授業改革【重点】	B 3.1 (3.3)	A	A	・適切です。 ・昔と授業の形がだいぶ違う。これからの社会の中で生きていく子どもにとって必要な事だと思う。
		自己評価に基づく改善の方策 ・ICTの活用を含め、教師の授業力向上と授業改善への取り組み ・学習者用端末を活用した授業改善及び学習者用ドリルの導入による家庭学習の充実 ・長期休業中の学習会の開催など補充的学習サポートの充実 ・学習支援員による少人数指導や特別支援員・日本語ボランティア・学生ボランティア、e-ラーニングを生かした基礎・基本の確実な定着 ・家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図り、学習量や質の向上	改善の方策を進める上での工夫 ・授業における「課題設定」「振り返り」場面の質の向上 ・デジタルドリルを活用した家庭学習と家庭学習を生かした授業の工夫 ・各種便りや懇談等を活用した望ましい生活習慣や家庭学習の啓発			

5	道徳教育	(9)豊かな体験活動を生かし、社会性を育む道徳教育の充実 (12)自他を大切にし、互いに認め支え合う人間尊重教育の充実	B 3.15 (3.4)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切です。</li> <li>善悪の判断、時間を守るなど家庭教育で教えるべきことも学校で教えなければならぬ時代となってしまった。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育全体計画の見直し</li> <li>特別の教科「道徳」に係る指導内容や指導方法の充実</li> <li>「豊かな心」の育成に向け、生徒会主体のいじめ防止取組(Heart to Heart)とボランティア活動の推進</li> <li>落ち着いた学校生活の維持(ノーチャイム等の継続)</li> <li>外部人材を活用した「体験的学習活動」の充実</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫			<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育推進教師を中心とした道徳の時間の指導計画の充実</li> <li>いじめ防止基本方針の見直しとその共有</li> <li>関係機関と連携した人権教育の充実</li> <li>外部人材の確保に向けた情報収集の強化</li> </ul>
6	特別活動	(10)望ましい集団生活を通し、自主的・実践的な態度をはぐくむ特別活動の充実	A 3.3 (3.4)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切です。</li> <li>生徒同士が関わり合いながら、人間関係を学ぶ機会となれば良いと思います。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動の活性化を図り、生徒の手による自治的な活動の充実</li> <li>生徒に見通しをもった計画や活動を行わせ、自主的・実践的な力の育成</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫			<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動・学級活動において、教科同様、思考・判断・表現の場面を意図的に設定</li> <li>学校行事における生徒個々の主体的な活動場面の工夫</li> <li>～生徒会が主体となった行事、校則の見直し。いじめ根絶集会、SOSを表現する集会活動～</li> </ul>
7	総合的な学習の時間	(6)自己実現を図ることができる計画的・継続的な進路指導の充実	A 3.4 (3.2)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切です。</li> <li>次年度以降の活動が楽しみです。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な学習の時間」全体計画の改善</li> <li>3年間を見通した系統的なキャリア教育計画の見直しと内容の充実</li> <li>外部人材の積極的活用による内容の充実</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫			<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の視点を生かした系統性ある年間指導計画の策定と実践</li> <li>地元千歳の魅力について、学習を通して発見し、発信できる教育活動へ改善。</li> <li>関係機関(千歳青年会議所等)と連携した体験活動の充実</li> </ul>
8	生徒指導	(5)生徒一人一人のよさを生かす学年・学級経営の充実【重点】 (11)生徒指導の機能を生かし、自己指導能力を高める生徒指導の充実 (14)生徒の学びを支える教育活動の充実	A 3.4 (3.3)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切です。</li> <li>「生徒アンケート」から先生方への信頼や学級満足度などの高さが分かります。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な対話を通して生徒に寄り添った指導の推進と落ち着いた生活環境の定着と維持</li> <li>「いじめ防止基本方針」の見直しや「いじめ対策委員会」の定例化を図り、「いじめ見逃しゼロ」～年4回の「いじめアンケート」実施と公表、教育相談(1・2年二者懇談&lt;生徒4月&gt;、1・2年三者懇談7月、11月。3年二者懇談&lt;生徒7月、三者懇談前&gt;、3年三者懇談12月)の効果的活用、全職員で情報共有と生徒理解</li> <li>関係機関と連携し、不登校生徒や家庭に課題のある生徒への対応</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫			<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動・学級活動における思考・判断・表現場面の設定</li> <li>ハイパーQU検査の実施・分析方法に係る職員研修を行い、生徒支援や学級経営の充実に活用</li> <li>複数教員で見守り、個々の生徒に寄り添った生徒指導(選択と責任)</li> <li>「いじめアンケート」の分析と組織的な情報共有、生徒理解研修と教育相談活動の充実</li> <li>「いじめ・不登校対策会議」の定例化(毎月1回以上)</li> </ul>

9	健康・安全 教育	(3)安全・安心な教育環境の構築・教育活動継続のための準備 (12)生命の尊重を基盤とし、社会に貢献できる健康・安全教育の充実	A 3.4 (3.5)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切です。</li> <li>・”自分の身は自分で守る”意識の向上は大切な事だと思います。</li> <li>・体験を織り交ぜ、様々なケースを想定した安全教育・避難訓練は大切だと思います。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と連携した学校安全教育(体験的交通安全・防災訓練・防犯教室等)の推進</li> <li>・防災教育等の見直しを含めた充実・改善</li> <li>・危機管理マニュアルの見直しと積極的活用</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫			<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルの検証と改善</li> <li>・様々な状況に対応できる力を養う安全教育の実施(例:予告なしの避難訓練)</li> </ul>
10	特別支援 教育	(13)生徒個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	A 3.3 (3.2)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切です。</li> <li>・一人一人の生徒にきめ細かい対応をして、ありがとうございます。</li> <li>・今後は不登校の子どもや特性のある子どもへの対応が重要だと感じた。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターを中心に支援員を含めた支援体制の確立と校内支援委員会の定期的開催</li> <li>・情報交流や個別の支援計画を作成し、支援方法の確認と個別指導の充実</li> <li>・特別支援教育に関する研修を充実させ、教職員の指導スキルの向上</li> <li>・関係機関との連携による当該生徒の支援</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫			<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援対象生徒の個別の指導計画の作成と実施、学年間の共有</li> <li>・校内研修における特別支援教育に関する研修の実施</li> <li>・適応指導教室おあしす等との連携を深め、当該支援の支援の充実</li> <li>・特別な配慮を要する生徒、不登校生徒に係る情報と対応の定期的共有</li> </ul>
11	キャリア 教育	(6)自己実現を図ることができる計画的・継続的な進路指導の充実	A 3.4 (3.3)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切です。</li> <li>・将来が見通せない状況の中で、希望が持てない子どもが多い。こういった教育活動を通して、希望がもてるようになると良い。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校3カ年を見通した進路指導</li> <li>・系統性を考慮したキャリア教育の全体計画作成と検証</li> <li>・体験的教育活動を通じたキャリア意識の向上</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫			<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育について小中9カ年の系統性を踏まえた全体計画作成と共有</li> <li>・汎用的能力、キャリアプランニング能力、人間関係形成力など、育てたい力に関する共通理解</li> <li>・進路指導体制の確立とキャリアパスポートの継続的な指導の充実</li> </ul>
12	ふるさと 教育	(16)目指す子ども像の共有と信頼される学校づくり (17)まちづくりへの参画意欲・資質・能力の向上	B 3.1 (3.5)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切です。</li> <li>・地元千歳に愛着をもてる子どもに育てほしい。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区の小中連携・一貫教育の充実(中1ギャップ軽減・解消)</li> <li>・家庭学習の習慣化や教育課程の編成、教科指導の接続などに向けた小中の情報交流を図る</li> <li>・ふるさとへの愛着を育む活動の充実</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫			<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携・一貫教育の充実に向けた計画的な取組の推進</li> <li>・「総合的な学習の時間」の教育課程を変更し、関係機関と連携したふるさと学習の充実</li> </ul>

13	今日の教育課題	(16)新たな教育課題への対応＝SDGs・ESD、国際理解教育の推進【重点】 (17)国内外で活躍する意欲と創造力はぐむ教育の充実(国際理解教育) (18)豊かな自然を守り環境について考え行動する態度を育む指導の充実(環境教育) (19)豊かな感性や思考・表現力をはぐむ文化活動の充実	B 3.2 (3.3)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切です。</li> <li>英語教育の充実がさらに進むと良い。</li> </ul>
		自己評価に基づく改善の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹都市ミアーズ中学校との交流</li> <li>・情報モラル教育の充実と学習者用端末の積極的活用と充実</li> <li>・SDG'sを意識した教育活動の推進</li> <li>・校則等の男女別表記の改善、保健体育科の共修、男女混合名簿の導入</li> <li>・増加する不登校生徒等に対応する環境整備</li> </ul>	改善の方策を進める上での工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹都市ミアーズ中学校との交流事業を関係機関と連携して充実</li> <li>・一人一台端末を活用した教育活動と情報モラル教育の充実</li> <li>・「総合的な学習の時間」における学習内容をSDG'sを軸に転換</li> <li>・別室登校に対応する部屋の整備(「ゆうまいルーム」の常設)</li> </ul>	

## 6 今後の方向性についての校長所見

<p>◆開校以来、生徒・保護者・地域の実態を踏まえ、12年間にわたり積み上げてきた成果を基盤にして、検証改善を繰り返しながら生徒の可能性を伸長するための教育活動に取り組む。学校評価(自己評価、生徒アンケート、保護者アンケート)や学校職員人事評価シートに係る教職員面談等を通して、明らかになってきた課題である「自己肯定感」や「自己有用感」を高めるために「生徒一人一人のよさを生かす学年・学級経営の充実」を年度の重点とし、全教職員で組織的に取り組んできた。この重点は国や道においても重要視され、育むべき「生きる力」の根底を支える要素の一つであると考えられる。</p> <p>これまでの成果である「学習規律の確立」、「あいさつの響く学校」、「わかる授業の実践」、「いじめのない学校づくり」などに引き続き取り組むとともに、自己指導能力を育む中で生徒が自ら考え、表現し、行動する学習機会の提供や指導・支援を行っていきたい。また、特別支援教育研修会やハイパーQU研修会を次年度も継続し、増加する困り感を持つ生徒への支援や不登校生徒への柔軟な対応について検討し、誰もが安全・安心して学校生活を送れる環境を整備し、併せて支援体制の構築を図っていきたいと考えている。</p> <p>具体には、校務分掌組織の改編及び校内教育支援センターの常設、特別支援コーディネーターの増員などの環境整備に取り組み、誰一人取り残すことのない「令和の日本型学校教育」の推進に努める。</p> <p>上記のことから、令和6年度学校経営方針の重点目標を「自己指導能力を身に付けた生徒の育成～自ら課題を考え決断し、表現・行動する生徒の育成～」として教育活動を全教職員で組織的に推進する。</p>
---